全日本2年ぶり優勝

秋季リーグ10連覇目指す

部員が語る強い理由

優勝旗を持って行進する萩原主将

準硬式野球の学生日本一を決める文部科学大臣杯第66回全日本選手権決勝は8月17日、岡山県倉敷市のマスカット球場で行われ、中央大学が日本大学に延長11回、萩原大貴主将の本塁打で3−2とサヨナラ勝ちして、2年ぶり11度目の優勝を遂げた。大会には全国から24校が参加した。

写真提供＝中大スポーツ

準硬式野球部

表彰式

萩原主将の活躍が際立った。スーパーヒーローの誕生だ。中大の全3得点を一人で叩きだした。

同点スクイズ、犠牲フライでまた同点。延長11回には先頭打者で、右翼席へサヨナラ本塁打。「インコース、高めのストレートでした」。左打席から放たれた白球は、優勝への懸け橋のように両翼距離99.5mのフェンスを超えていった。

「入るとは思わなかったので一生懸命に走りました」と無我夢中だった様子。日ごろ、大学寮から東都大学リーグ戦開催球場までのランニングを“チーム是”としているだけに、走りはお手のもの。あっと言う間にダイヤモンドを駆け抜けた。

萩原大貴主将

ヒーローをホームベースで待ち構える選手に笑顔が並んだ。「こんな終わり方、初めてです」と主将。「スクイズも犠牲フライもみんながチャンスをつくってくれたから」。キャプテンらしい言葉で総括した。

エース小河原謙哉投手はホッとした表情だった。「去年はけがをして投げられず、チームに迷惑をかけていたので、勝ってよかったです。まだ借りを返してはいませんけど」

決勝を含めて4連投。初戦の2回戦・愛知大、準々決勝の同志社大、準決勝の立命館大、そして決勝で日大を倒した。腕も折れよといわんばかりの心意気。エースナンバー18がよく似合っていた。

小河原謙哉投手

貴重な経験積んだ1年生

リリーフは木下愛（いとし）投手。期待の1年生サウスポーは6回からマウンドへ。リーグ戦は先発をこなすが、この決勝は必勝態勢だ。池田浩二監督の決意がこめられた投手リレーである。

相手日大も勝ちたい。リーグ戦では何度も中大の後塵を拝しているだけに、新人投手に向かっていく迫力も決勝ならではだ。

木下愛投手

スコア2−2の9回表、木下投手は2安打と四球で満塁とされた。しかし、ここを乗り切った。3番打者を二ゴロに打ち取った。自信を深めたシーンである。「緊張するかと思っていましたが、自分のピッチングができました」

好プレーが続いた決勝戦

11回表の守りでスーパープレーがでた。2死2塁から日大打者が左翼へ痛烈なライナーを放った。勝ち越し点が入ってしまう…。中大サイドはひやっとしたものの代打から左翼に入った延田寛基外野手がダイビングキャッチ。試合の流れを引き戻したその裏、飛び出したのがサヨナラ本塁打だった。

投手を粘り強くリードした福澤開捕手。毎回のようにランナーを背負いながらも、しぶとく守った内野の萩原一塁手、大湾圭人二塁手、原田大輝三塁手、小貫慧太遊撃手。外野の小池優太郎左翼手、武内一馬中堅手、児玉健一郎右翼手。途中出場した芝田泰樹左翼手、代走の冨山拓

全日本2年ぶり優勝 秋季リーグ10連覇目指す準硬式野球部

前列左から児玉、延田、勝山、後列左から松嶋、福澤、小河原、大湾、萩原各選手

海外野手、守備固めの上野太一遊撃手。

試合に出場した選手、ベンチで声援を送った選手。一つひとつの役割に責任感があふれ、試合進行とともにチームはいっそう強固になった。

学生日本一を決める大会。昨年は地元多摩地域開催とあって、優勝をこれまで以上の大目標としたが、準決勝で関西大に1－2と惜敗。栄冠は関大の手に。

この1年、選手は雪辱を胸に刻んできた。個々人の熱くたぎる思いが重なり、日大を上回った。日々の努力は、全国制覇という大輪の花を咲かせた。

8月末からリーグ戦が開幕した。目標は10連覇だ。春季優勝のV9で先輩たちが持つリーグ記録を塗り替えた。記録更新へ、また新たな戦いの始まりだ。

萩原主将が言う。「監督から受け身になるな、と言われています。全日本選手権と同じく、挑戦者としてプレーします」

ルーキー左腕は「全日本でいい経験ができたので、リーグ戦にいかしていきます」と短く言った。

エースのコメントはこうだ。「毎日の練習を頑張ってしていきます。頑張っていれば、絶対いいことがあると思ってやります」

千里の道も一歩から。きょうの練習が栄光へのラップを刻む。

■決勝までの足跡

決　勝	3−2	日　大
準決勝	14−1	立命館大学
準々決勝	2−1	同志社大学
2回戦	7−0	愛知大学

(注)2回戦から出場

■中大　決勝戦出場メンバー

中　武内(商3、報徳学園)
二　大湾(商4、興南＝沖縄)
左　小池(商3、高崎健康福祉大高崎)
＜1裏　芝田(商2、高知中央)、
　6裏　代打　延田(商4、報徳学園)＞
三　原田(商2、水戸商)
一　萩原(法4、浦和学院)
捕　福澤(商4、甲府商)
遊　小貫(商3、大館鳳鳴)
＜9裏　代走　冨山(文1、岩国)、
　10表　上野(商2、報徳学園)＞
右　児玉(商4、岐阜商)
投　小河原(文4、甲府南)
＜6表　木下(商1、佐世保実)＞

最近10年間の全日本選手権成績

2014	中大	3−2	日大
2013	関西大	4−2	甲南大
2012	中大	7−2	甲南大
2011	中大	1−0	福岡大
2010	同志社大	6−4	法大
2009	中大	1−0	専大
2008	中大	3−2	関西学院大
2007	桜美林大	6−1	東北学院大
2006	中京大	6−3	福岡大
2005	関西学院大	6−4	日大

日本一の笑顔が並ぶ

女子マネージャーとしてチームに参加しませんか

連絡先：中央大学準硬式野球部HP「お問い合わせ」まで